

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	bamPlus		
○保護者評価実施期間	令和 年 月 日		～ 令和 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 24日		～ 令和8年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・広い室内で、子どもたちがのびのびと活動できる。 パーティションで室内を仕切り、集団支援と個別支援のスペースをにけているため、個々のニーズに合わせて支援できる。	保育園、幼稚園での日々の生活や行事へスムーズに参加できるよう運動能力の基礎ができる時期(3～8歳)この成長期に必要な運動・バランス・リズム感等を育む支援を行っている。 日頃の頑張りを発表する場として運動会やクリスマス会などの大きなイベントを開催している。	来年度からは、小学校へ進学する児童へ向けて学習(宿題)の支援も行う。
2	・運動や保育に特化して専門スタッフが揃っているため、それぞれの分野での活動内容を取り入れることができる。	・スタッフの得意分野を活かして、毎日違う活動内容でプログラムを作成している。(体育・製作・サッカー・クッキング・ボードゲームなど)	・運動会やクリスマス会など、年に数回の大きな用事を開催することにより、保護者への発表の場を設けている。
3	・月に1, 2回の野外活動を行うことにより、公共の場でのルールや社会性を身に付ける機会を設けている。	・大きな公園や川遊びで体を動かしたり、プラネタリウムや水族館で静かに過ごしたりと、様々な場所でのルールを身に付けていけるよう工夫している。	・野外活動では、少人数のグループに分かれることで、子どもたち主体で意見を出し合ったり、異年齢児同士の関わりを持つ機会を作っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動スペースが広く、のびのび体を動かせる分、怪我のリスクが増える。	・とび箱や鉄棒など、大きな用具が置かれていたり、ボール遊びやおにごっこができる広さがあるため、自由時間は特にルールや約束事を徹底する必要がある。	・防犯カメラを設置することにより、室内の隅々まで目が行き届き、死角をなくすことができている。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営は行えていない。	保護者、きょうだい参加型イベントは開催するが、地域住民となると保険等の保障問題という懸念がある。	安全に住民を迎え入れる環境を整えること。また、野外活動の参加を募る。
3	・スタッフと児童との距離感が近いことが、強みでもあり弱みでもある。	・スタッフと児童の距離感が近いことで、なんでも話しやすい雰囲気であると同時に、メリハリがなくなってしまう時がある。	・スタッフ全員が、適切な距離感で児童と接し、時には甘えられる雰囲気を作りながらも、メリハリある行動を意識している。